

青梅・西多摩地区向け

お盆読本

～お盆の飾り付け&お作法で迷わないために～

東京青梅 **喜樂屋**

お盆は、亡くなった方々を追慕し、ご先祖様を敬う日本古来の仏教行事です。

そして、先に旅立たれたご家族様やご先祖様が、年に一度、おうちに帰ってこられる大切な日でもあります。

ご先祖様をお迎えするにあたっては、いろいろな準備が必要となりますが、その形態は、地方・地域によって様々です。

この「お盆読本」では、青梅・羽村・福生・奥多摩など、西多摩地域での一般的なお盆の形態をもとに、お話をしていきたいと思います。

お盆に向けて、何を用意しておいたらよいのかについては、ふと忘れてしまいがちなものです。

そうしたときに、本書を取り出し、ご参照していただければ幸いです。

【パート1：お盆の飾り付け】

■お盆の飾り付けに必要なもの

お盆の飾り付けは、「ご先祖様を明るく華やかに迎えする」ことが基本です。

「盆提灯（ぼんちようちん）」や、赤く小さな灯りに見立てた「ほおずき」

を、お仏壇のまわりに飾ります。

※かつての西多摩では、お盆の飾り付けには「盆棚（ぼんだな）」という特別の棚が使われたのですが、いまはほとんど使われなくなり、飾り付けはお仏壇に直接、行われるようになっていきます。

●ほおずき〈酸漿・鬼灯〉	灯りに見立てたほおずきを、お仏壇まわりに飾ります。
●笹	笹を飾り付け、涼しさを演出します。
●経机（きょうづくえ）	小さな仏壇用テーブルです。お供物などを置きます。
●まこも〈真菰〉	経机に敷くお盆用の敷物です。
●キュウリの馬	「足の速い馬に乗って早く帰ってきてほしい」との願いを込めます。ワラの馬を使うこともあります。
●ナスの牛	「お帰りの時は、ゆったりとした牛の背に乗って」との思いを込めます。ワラの牛でもOKです。
●蓮の葉とみそはぎ〈襖萩〉	蓮の葉を2枚、用意します。一方の蓮の葉には水を張り、その上にみそはぎを置きます。もう一方の蓮の葉には、果物などを置きます。
●お盆提灯	お盆を華やかに明るく演出します。できましたら、一対以上、ご用意ください。
●おがら〈苧殻〉	繊維を取ったあとにあまった麻の茎で、お迎え火とお送り火の際に使います。ご先祖様に我が家の場所をお知らせするための道しるべです。
●お花	お供え用のお花を用意します。故人のお好きだったお花をお供えするとよいでしょう。

■お盆提灯について

お盆の際に、お仏壇の両脇に飾る提灯のことを「お盆提灯」といいます。

お盆提灯は一对で用意し、お仏壇の両脇に1つずつ飾るのが基本です。お盆提灯は、お盆を華やかにするために飾るものですので、二対でも三対でもかまいません。

なお、ご親戚などからお盆提灯を頂戴する場合がありますが、そのお盆提灯も、お仏壇のまわりに飾り付けます。



お盆提灯

■新盆用提灯について

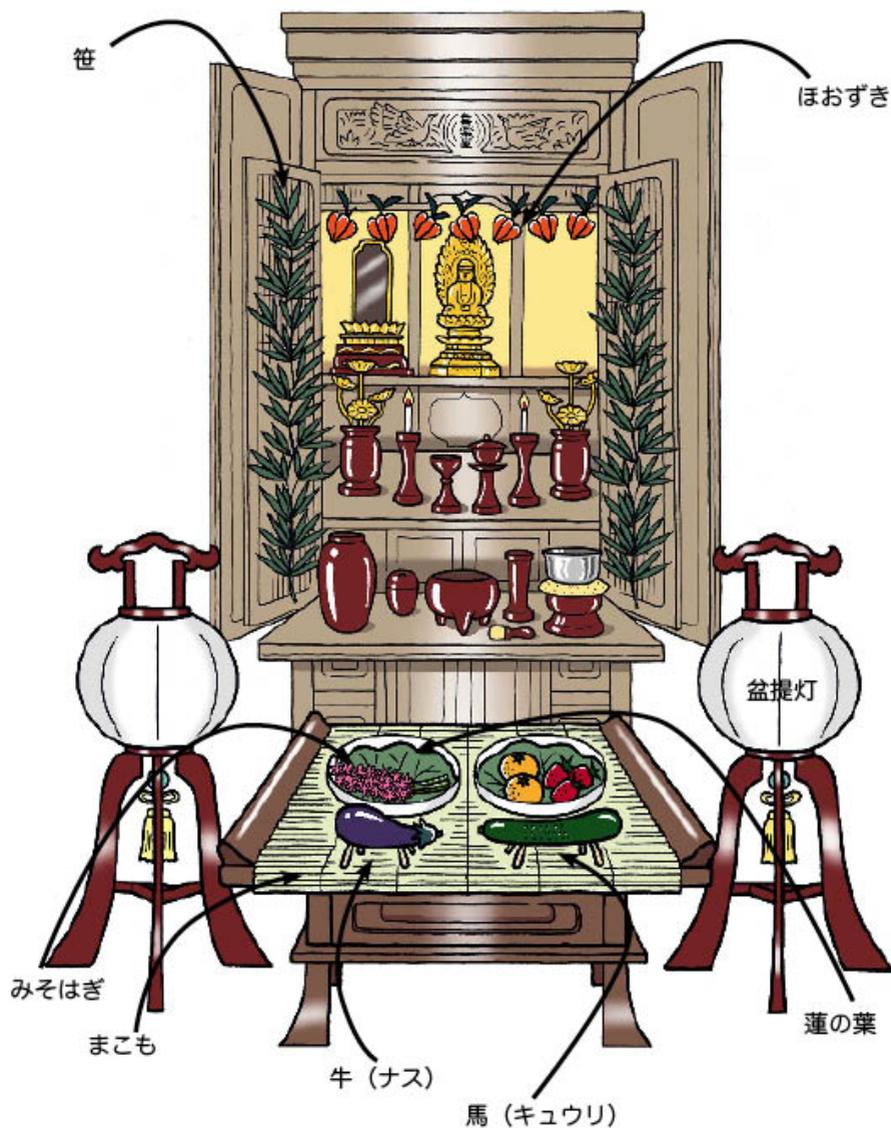
その年に初めてお盆をお迎えするご先祖様がいらっしゃるご家庭では、「新盆用の提灯」をご用意ください。

新盆用提灯は、お墓からご先祖様をお迎えになるときや、お墓にお送りするときを使う白い提灯です。



新盆用提灯

お盆のお飾り



■お仏壇まわりの飾り付け

ほおずきと笹をお仏壇のまわりに飾り付けます。麻ひもやたこ糸などを使って、お仏壇に括り付けるとよいでしょう。

経机にはまこもを敷き、その上に、馬、牛、蓮の葉などを置きます。

お仏壇の両脇には、盆提灯を飾ります。

新盆のご家庭では、これらのほかに、新盆用の白い提灯を、軒下や室内に吊します。

※ほおずき・笹・蓮の葉などの生ものは、お盆の10日位前より、花屋や八百屋などで販売されます。

■お供物について

お供物には、季節のごちそうや果物などをご用意ください。

ちなみに、喜楽屋では、ごちそうには、みょうがなどの薬味がたっぷりときいたお素麺（そうめん）と天ぷらを、果物には、西瓜（すいか）などを用意して、お供えしています。

故人がお好きだったものをお供えすれば、きっと喜ばれるでしょう。

■盆花（ぼんばな）について

お仏壇の中に「金物で出来た蓮の花（常花：じょうか）」かございましたら、盆花は特に必要ありません。

盆花は昔、金物が高価だったころに「せめてお盆の時だけでも仏様の象徴である常花をお供えしたい!」という思いから、紙で代用品を作ってお供えしたのがルーツです。

常花がお仏壇に入っていないようでしたら、この機会に「常花」をお揃えになってもよろしいかと存じます。



常花

■飾り付けの前に、お掃除を！

お盆の飾り付けは、年に一度だけのこと。飾り付けの前に、お仏壇をお掃除してみるはいかがでしょう。

【パート2：お盆のお作法について】

■お盆の日程

西多摩のお盆は通常、7月13日から16日の4日間になります（地域によって、多少前後にずれる場合があります）。

「盆の入り」の13日にはお墓参りとお迎え火を行い、14～15日はご先祖様と一緒に過ごし、「盆の明け」の16日にはお送り火をします。

■お墓参りに適した時間とお墓のお掃除

お墓参りは、明るい時間を選んで行いましょう、夕方の暗い時間になりますと、足もとが見えにくくなり、危険です。

13日のお墓参りの際には、お墓のお掃除をしたいものです。

「お墓のお掃除セット」を持っていけば、短時間でお墓のお掃除ができますし、汚れてしまいがちな花立ての底も簡単に綺麗にできます。

■お盆がくる前に一度、お掃除をしておくのもオススメ

お盆の当日というのは、飾り付けやお迎え火などで、意外と忙しくなってしまうものです。

そこで、お盆の数日前に一度、あらかじめお墓のお掃除だけ済ませておくのもよいかと思えます。

また、事前にお墓のお掃除の日を作っておいて、その日に、おがらやお花、お線香などの買い出しも一緒にしてしまえば、お盆の当日になって、あわてたりせずに済みます。



お墓お掃除6点セット

セット：お墓用ブラシ、花筒用ブラシ、研磨材（ブロック型・シート型）、クロス、スポンジ、携帯用ビニール袋

■ご家庭でのお迎え

盆の入りの13日、夕方になりましたら、ご先祖様をお迎えます。

まず、盆提灯に火を入れ、お供物をお供えます。

次に、お線香を一本とおがら、マッチ（またはライター）と火種用の紙（新聞紙など）を用意して、玄関先に出ます。

なお、おがらは、一束のうちの半分だけを使い、残りは、お送り火のために取っておきましょう。

おがらに火を付けて、お迎え火を行います。

お迎え火の火をお線香に付け、お仏壇の香炉へお供えます。

お迎え火が終わったら、火が確実に消えたかどうか、十分にお確かめください。

さて、お迎え火の間に、ご先祖様はおうちにお帰りになりました。みなさんでお仏壇の前に座り、ご供養をしてください。

■仏様のお送り

お盆が明ける16日の夕方には、お送り火をします。

お仏壇のお線香に火を付け、そのお線香とおがら、マッチ（またはライター）と火種用の紙（新聞紙など）を持って、玄関先に出ます。

お線香の火でおがらに火を付け、お送り火を行います。

お送り火が終わったら、火が確実に消えたかどうか、十分にお確かめください。



■お盆提灯の選び方のポイント

お盆提灯は、ご先祖様を華やかに、そして、あたたかくお迎えするために使う灯りです。足がついているので、「行灯（あんどん）」と呼ばれることもあります。西多摩では普通、一對のペアで用意し、お仏壇の両脇に飾ります。

お盆提灯は、ご先祖様の生前のイメージやご家庭のお好みによってお選びくださるとよいかと思います。

①大きさに選ぶ！

ご家庭の中では、飾り付けのスペースはとても重要です。

お盆提灯には、その高さによって、「大（約 80cm）」「中（約 70cm）」「小（約 55cm）」の3種類があります。

喜楽屋で人気のサイズは、「中（約 70cm）」です。「中（約 70cm）」は、一般的なご家庭でもご利用しやすいコンパクトさながら、存在感があります。

②材質によって選ぶ！

お盆提灯は、その材質によって、雰囲気が変わってきます。基本的な選び方の一つに、お仏壇の材質に合わせるという方法がありますが、実際に目で確かめて、お好みの材質をお選びください。

喜楽屋では、黒檀（こくたん）、紫檀（したん）、樺（けやき）などを用いた「銘木行灯シリーズ」などをご用意しています。



銘木総黒檀桐箱入



銘木総樺竹ひご造り

③家紋入り提灯を選ぶ！

年に一度、大切なご先祖様をお迎える行事のため、ご家庭の繁栄の印である家紋をあしらったお盆提灯を準備されるご家庭も、少なくありません。

喜楽屋の家紋入り提灯は、家紋を二重の火袋の内側に描く仕上げで、とても柔らかな雰囲気になります。

ご注文は、6月末日までにお願いいたします。



銘木総櫻二重火袋紋入り

④花言葉で選ぶ！

お盆提灯には、秋の草花が描かれています。その草花の花言葉で選ぶのも一つの方法です。

桔梗 (ききょう)	変わらぬ愛・気品 誠実・従順
芙蓉 (ふよう)	繊細な美 しとやかさ
菊	高貴・高尚・高潔 清浄・真の愛
秋桜 (コスモス)	乙女の真心 乙女の愛情
薄 (すすき)	活力・精力 心が通じる

■お盆提灯のお取り替えの時期

毎年お使いいただけるお盆提灯ですが、色あせやほころびが目立ってきたら、お取り替えの時期です。およそ3年程度で取り替えるのがよいでしょう。

【パート3：新盆の場合のお迎えとお作法】

■新盆様のいらっしゃるご家庭では

今年初めてお盆を迎えられる仏様のことを、「新盆（にいぼん）様」「新盆の仏様」などといいます。

新盆の仏様がいらっしゃるご家庭では、通常のお盆飾りのほかに、新盆様をお迎えするための、特別な白い提灯が1つ、必要になります。

■新盆用の提灯は1回限りのもの

新盆用の提灯は、特別なものです。

新盆の仏様は、今回初めて、おうちへ戻ってこられます。

そのため、途中で迷ったりしないように、道しるべとして「光によるご案内」をするのが新盆用の提灯で、その年一回限りのご使用となります。

■お迎えのあとは軒下へ

お迎えのあとの新盆用提灯は、お家の軒下に吊し、夜になりましたら火を入れてください。

軒下がないご家庭の場合には、室内や窓際に吊してください。

ろうそくタイプの新盆用提灯をご利用の場合には、火の元には十分にご注意下さい。



軒下に吊す例



室内に吊す例



窓際に吊す例

■お迎えとお送りの作法

新盆用の提灯は、今年初めてお盆を迎える仏様専用の提灯で、新しい仏様を光でご案内するために使います。

新盆用の提灯に関するお作法は、主には下記のような手順になります。

■新盆用提灯の始末

新盆用の提灯をご自宅で始末されるときは、提灯を可燃部分と不燃部分に分け、所定のゴミの日にお出しください。気になる方は、各部分を袋に入れ、少々のお塩をお振りください。

もちろん、ご家庭でおたき上げをしていただいても結構です。

1	お墓参りの際に、新盆用提灯をご持参ください。
2	お墓の前でのご供養が終わったら、お墓に上がっているお線香やろうそくの火を使って、新盆用提灯に火を灯します（電池式の提灯の場合には、スイッチを入れます）。
3	火を入れた提灯をそのまま、ご自宅までお持ち帰りください。なお、安全のため、お寺の山門から出たら、いったん火を消してください。
4	お盆の期間中は、新盆用提灯を軒下やお部屋に吊し、日が暮れたら灯りを入れます。
5	お盆の最終日のお墓参りにも、新盆用の提灯に火を灯し、お墓までお持ちください。なお、安全のため、火は山門を入れてから灯してください。
6	お墓参りが終わったら、ご自宅に持ち帰り、処分してください。なお、お寺様によっては、新盆用提灯をお納めすることもできます。詳しくは、菩提寺様、または、当店にてご確認ください。

【パート4：お盆についてのよくある質問】

「お盆提灯には、どのような種類があるのですか？」

《お答え》 お盆提灯には、毎年のお盆に使う足付きの「お盆提灯」と、新盆様専用の「新盆用提灯」があります。

お盆提灯は、大きさや材質の違いを実際に確認してお選びいただくのがよろしいかと思えます。また、提灯に描かれている秋草の花言葉などによって選んでみるのもよいでしょう。故人のお好みに合ったお盆提灯をご用意するご家庭が増えています。

なお、新盆用提灯は、白い提灯が基本です。軒先に吊したり持ち歩いたりしますので、ろうそく式のものよりも、電池式の提灯をお勧めします。

「新盆の際には、何か特別な飾り付けが必要になりますか？」

《お答え》 新盆だからといって、新盆用提灯をご用意していただくほかには、特別な飾り付けは必要ありません。いつもの通りのお盆の飾り付けをしてください。

「新盆用の提灯は、一回限りの使用なのですか？」

《お答え》 新盆用の提灯は、初めておうちにお帰りになる仏様が迷ったりしないように、光でご案内するためのもので、その年一回限りのご使用となります。次のお盆には、仏様も迷わずに安心して帰ってらっしゃいますので、次年度は、新盆用の提灯は不要となります。

「お盆のお墓参りの際には、何か特別に持って行くものはありますか？」

《お答え》 お盆のお墓参りも、通常のお墓参りと変わりません。ただし、新盆様がいらっしゃる場合には、新盆用提灯が必要になります。

ちなみに、お墓参りのお供えとして持っていくものの基本は、「お線香・お米・お花」の3点です。これらのほか、ご家庭でいつもお供えされているような、故人がお好きだったものなども、お供物としてお持ちください。

なお、お墓のお掃除の道具やお線香に火をつけるための用具なども、お忘れにならないようにしてください。

「お盆の際にお客様がいらした時には、どのように対応すればよいのですか？」

《お答え》 まずは、お盆飾りをしたお仏壇の前にご案内をして、ご供養をしていただきます。

ご供養をしていただいたあと、「本日は先祖（故人）のためにお盆のご供養をしていただき、ありがとうございます」とお礼を述べます。

その後、ご先祖様のお話やお互いの近況などをお話しされるのがよいでしょう。

なお、お盆にこちらから出向くときには、あらかじめ、先方様のご都合をお聞きしてからお伺いください。

ご訪問の際には、「本日は、お盆のご供養に参りました」「ご供養させていただき、ありがとうございます」などとお挨拶していただければよろしいかと思えます。



Di-ana Kirakuya

創業嘉永元年（1848年）

喜楽屋
ディ・アーナ

お問い合わせはコチラまで

☎ 0428-22-6983

AM 10:00 ~ PM 6:30 月曜・祝祭日定休

〒198-0042 東京都青梅市東青梅 3-8-23

<https://di-ana.net>